



森林資源に根付いた価値創出と サステナビリティへの貢献

王子ホールディングス株式会社

2025年12月25日

はじめに

森林資源に根付いた事業運営



渋沢栄一により会社設立

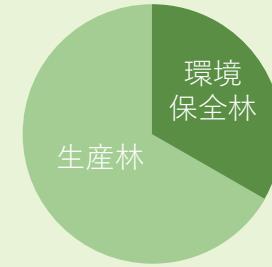


王子造林の設立



世界の王子の森 63.5万ha

経営
サステナブル
再植林による
活動に



森林資源に根付いた
ネイチャーポジティブ経営を継続

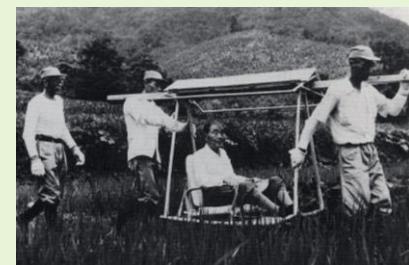
木材パルプ製造開始

「木を使うものには、木を植える義務がある」

1930年代 当社社長 藤原銀次郎

東京都王子に工場建設
ボロ切れをリサイクル原料として紙を生産

本格的な海外植林開始
早生樹植林が主流となる

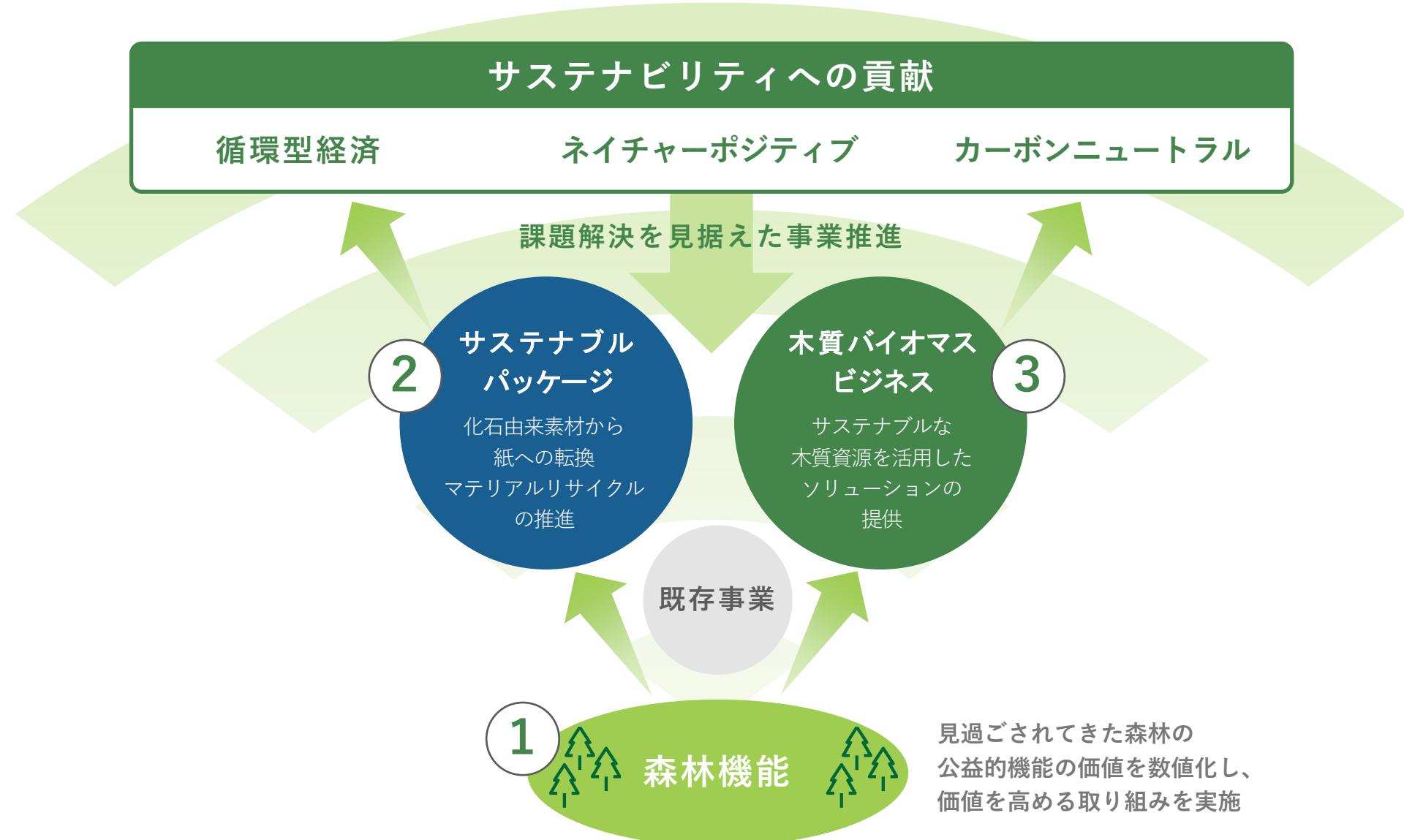


北海道での山林視察の様子

王子ホールディングス



持続的な成長に向けた取り組み



自然資本会計に関する国際的な流れ

自然資本会計の潮流



自然資本会計とは

自然資本とは、森林、土壤、水、大気、生物資源等、自然によって形成される資本（ストック）

これらの自然資本を経済価値として評価し、会計基準によりこんでいく議論が各国で進行中



自然資本が経済価値を生む時代へ

健全に管理された王子の森は、森林、土壤、水、大気、生物資源等、自然によって形成される自然資本（ストック）を生む

健全に管理されていない森



生物多様性
クレジット
などで評価



その他
自然資本を
経済価値
として評価

健全に管理された王子の森



水
クレジット
などで評価

“Nature on the Balance Sheet”に向けたプロジェクト展開

「自然財務諸表」の構築

- ・ 評価、自然資本会計、財務会計の方法を整合させる
- ・ 業界の実証事例を提示する
- ・ 価値を認識し、価格シグナルを更新する

1. 信頼できるデータに基づく自然資本評価と価値の発見

TNFD レポート LEAP
(2024, 2025)

2. 自然資本会計
ビジネスと社会への
価値の定量化

Project 1:
5,500億円試算

猿払PJ

Project 2:
NPI SoN パイロット

3. 財務会計で
認識される自然資本

Project 4 : 東京大学CGC-NBS 日本コンソーシアム

Project 5 : 新プロジェクト検討中

5. 政府による自然資本の
地位の誘導と奨励

4. 自然資本資産/負債の
市場価格化
(例: 投資家や中央銀行による)

「自然財務諸表」への価値づけ

- ・ マクロ制御、会計手法、資本規則を自然の新たな価値に適応させる
- ・ 新たな科学技術を受け入れる
- ・ 自然に関する政治的なストーリーを再構築する

王子の森の経済価値 (国内)

2024年9月、国内社有林の多面的機能につき、
経済価値の試算額を発表

水源涵養

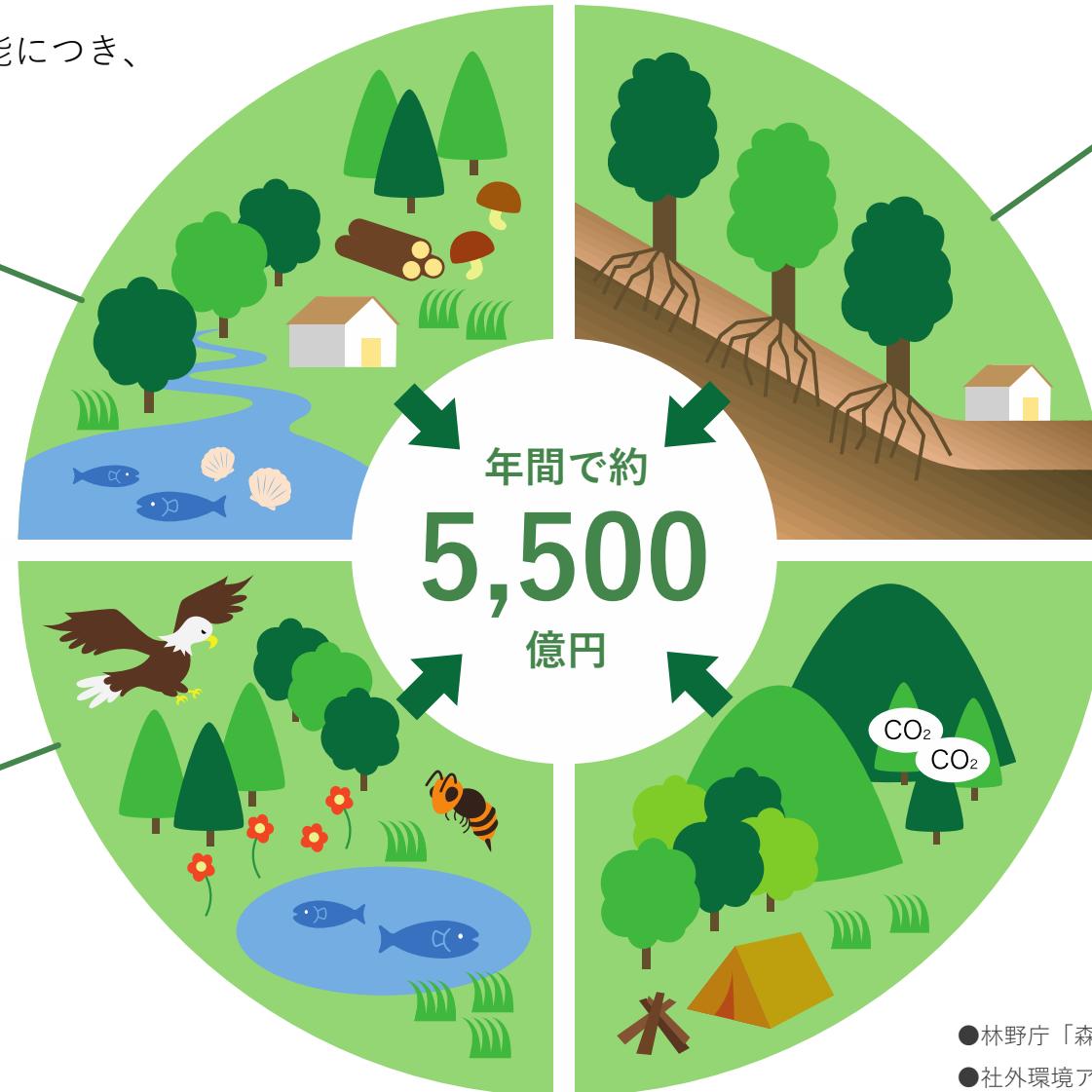
2,040 億円/年

森林の土壌が、降水を貯留し、
河川へ流れ込む水の量を平準化
して洪水、渇水を防ぎ、さらに
その過程で水質を浄化する役割

生物多様性の保全

430 億円/年

森林が果たしている野生鳥獣の
生息の場としての役割



土砂流出・崩壊防止

2,750 億円/年

森林の下層植生や落葉落枝が
地表の浸食を抑制する役割
森林が根系を張り巡らすことによって
土砂の崩壊を防ぐ役割

大気保全・保健休養

280 億円/年

森林がその成長の過程でCO₂を
吸収し、酸素を供給している役割
森林が人にやすらぎを与え、余暇を
過ごす場として果たしている役割

- 林野庁「森林の公益的機能の評価額について」の手法をもとに計算
- 社外環境アセスメント会社によるレビュー済み

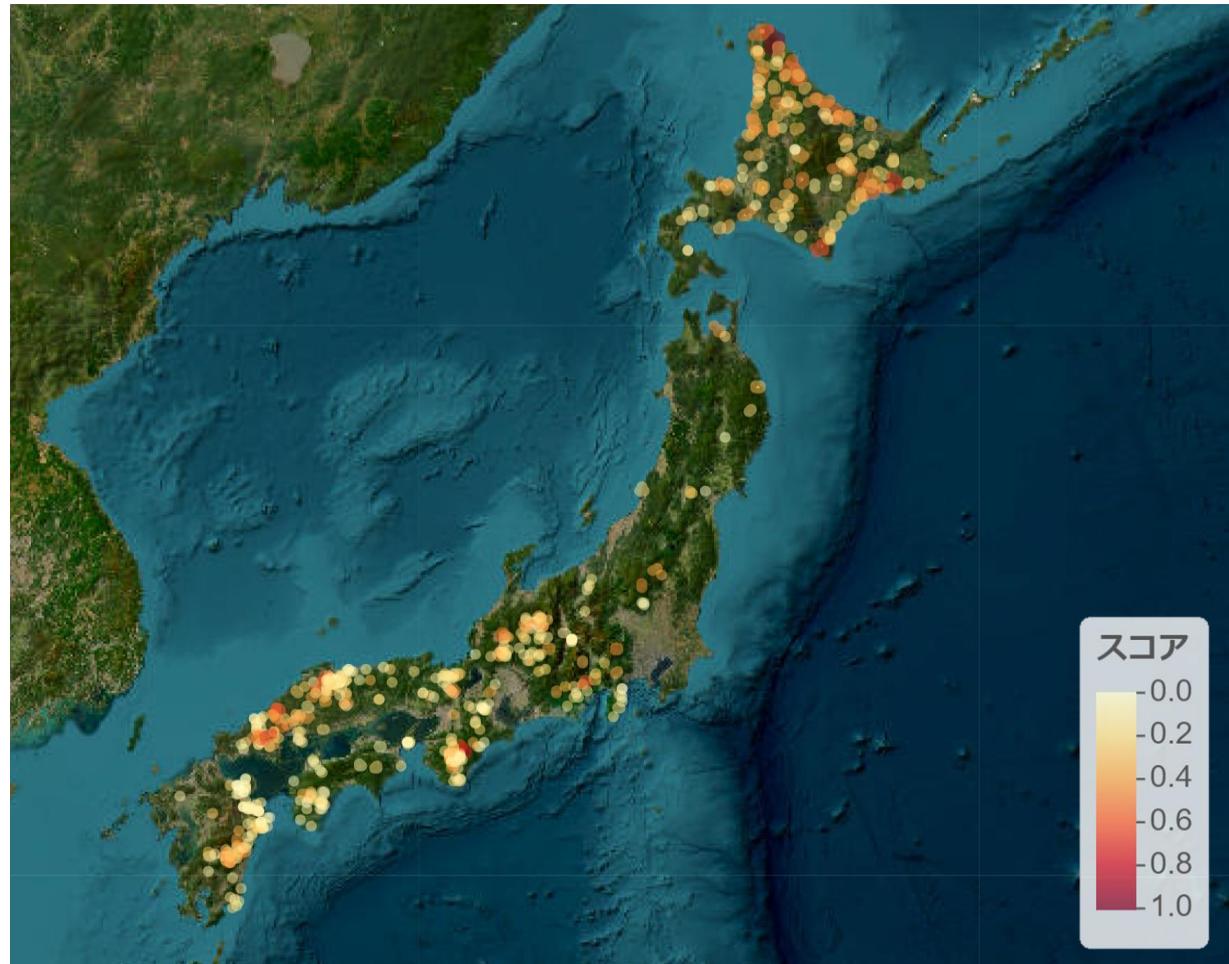
自然資本会計のためのアクション

経済価値の評価には、まず最初に、価値の棚卸と、定量評価手法の確立が必要



生物多様性の見える化（国内）

王子の森 生物多様性の重要度マップ



約650か所の国内の王子の森の生物多様性の観点で重要な場所を抽出（第1位：猿払王子の森）

生物ビッグデータと地形・気候・植生データ等から構築したモデルで、各社有林の生息生物種を予測、生物多様性重要地域(KBA*)との重なり等も加味し、重要度をスコア化

*KBA:生物多様性の保全の鍵になる重要な地域の指標

「王子の森」生物多様性（国内）

生物 3,000 種 以上

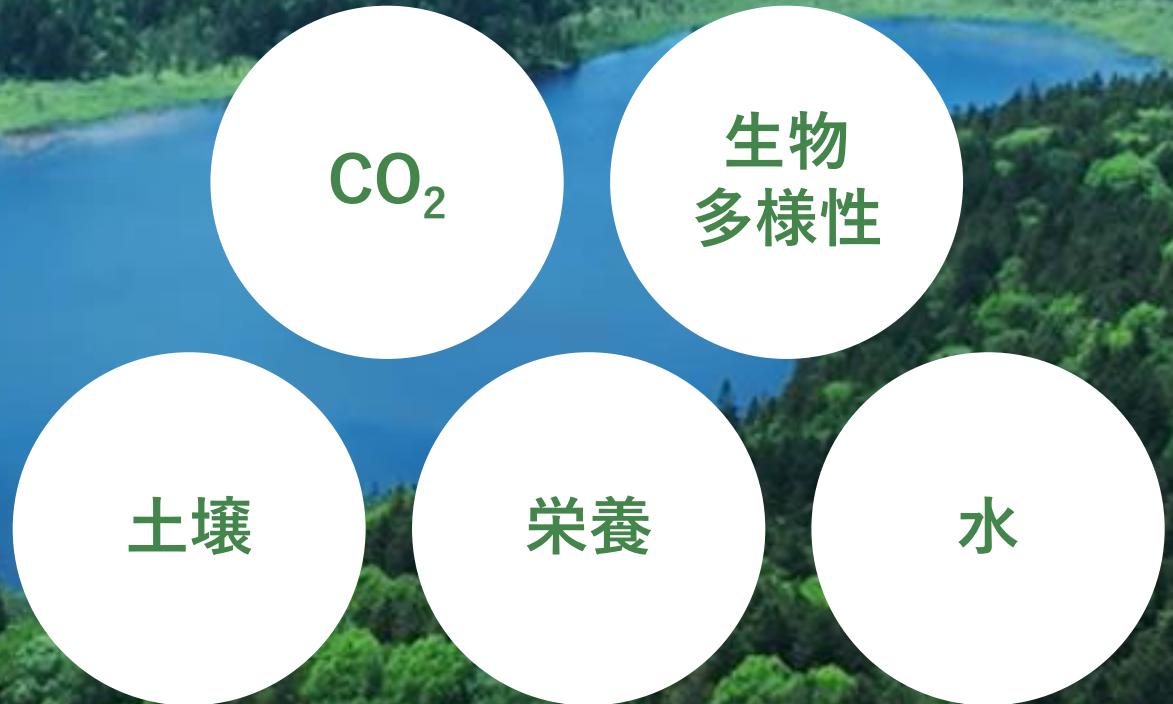
うち希少種

約 1,400 種

が生息していることが推定される

猿払における王子の森の価値見える化プロジェクトを始動

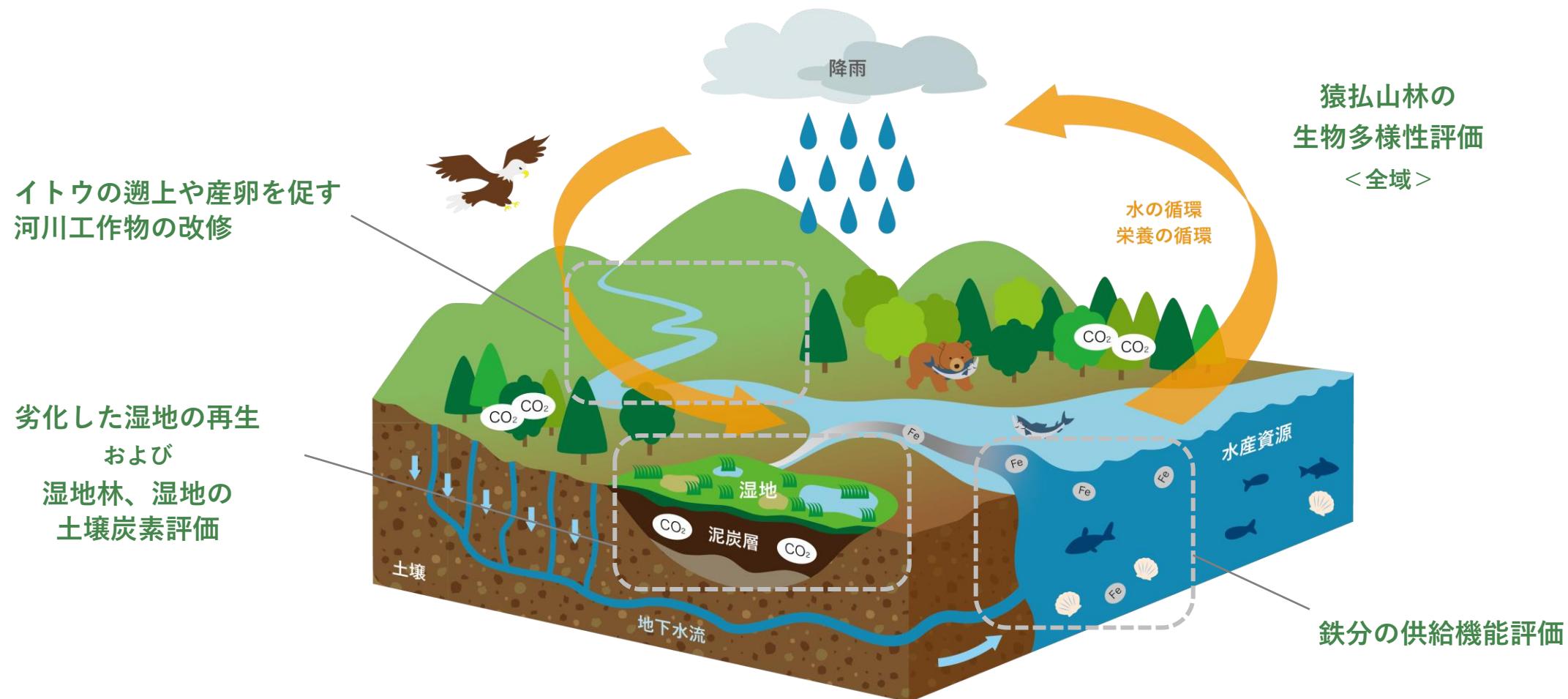
北海道大学の研究者と共同で重要な5要素(CO₂、生物多様性、土壤、栄養、水)の
価値の可視化と自然再生プロジェクトを実施中



5要素の価値の見える化

【猿払】5要素の価値見える化プロジェクト

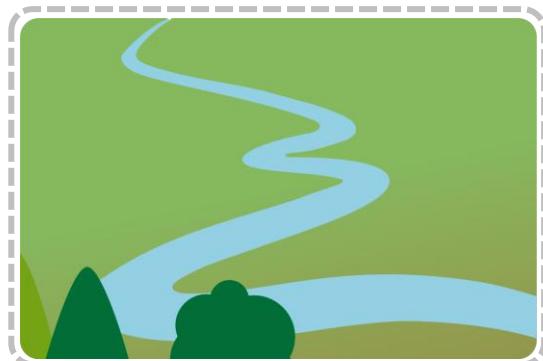
北海道大学の研究者と共同で重要な5要素(CO₂、生物多様性、土壤、栄養、水)の価値の可視化と自然再生プロジェクトを実施中



【猿払】5要素の価値見える化プロジェクト(2)

北海道大学の研究者と共同で重要な5要素(CO₂、生物多様性、土壤、栄養、水)の価値の可視化と自然再生プロジェクトを実施中

イトウの遡上や産卵を促す
河川工作物の改修



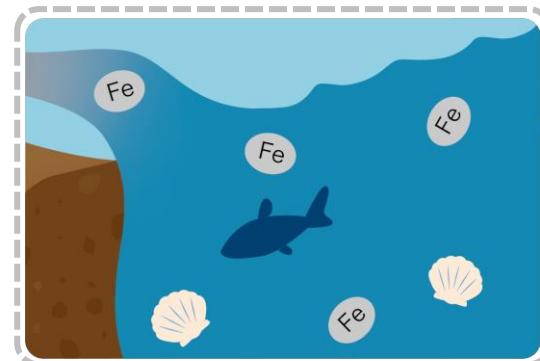
河川工作物（カルバート等）や
直線化された小河川の再蛇行化

劣化した湿地の再生および
湿地林、湿地の土壤炭素評価



湿地の水位を上げて乾燥化を防いだり
湿地の土壤中の炭素を評価

鉄分の供給機能評価



湿地～川～海への鉄分供給機能を評価
湿地が海洋生態系へ与える影響を見える化

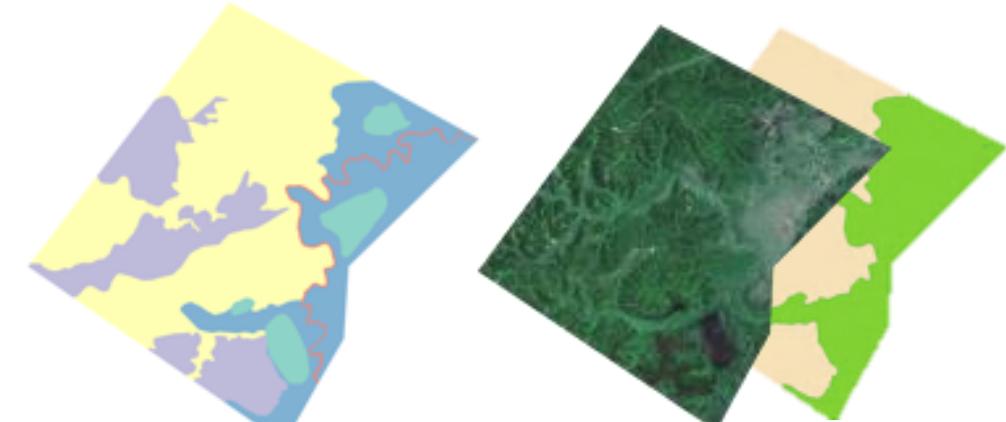
自然の状態指標のグローバルスタンダード作りへの参加

- ✓ Nature Positive Initiative (NPI) は自然関連で世界を代表する27団体による組織 (TNFD, IUCN, WRI, 等)
- ✓ 当社は、地域・セクター横断のNPIの自然の状態指標 (State of Nature Metrics) パイロットプログラムに参加
- ✓ 猿払での二年間の生物多様性と生息地データを活用して、解析を実施

現場で取得した生物多様性 データ+AI 解析

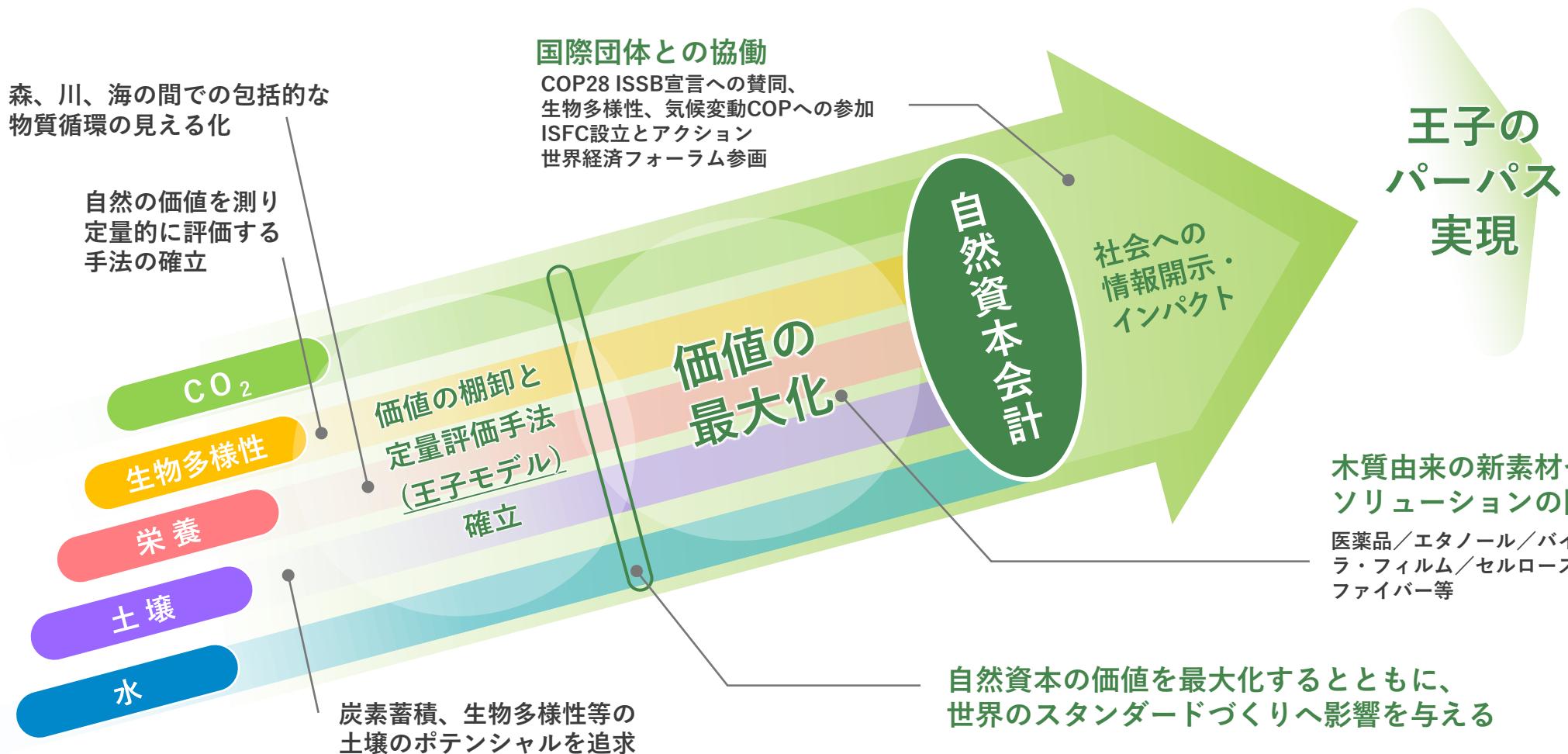


生息地情報の リモートセンシング



王子の森でのチャレンジ 次の150年にむけて－

気候変動と自然資本の変化は相互に影響するため、ネイチャー・ポジティブとカーボン・ニュートラル両方の実現を目指し、自然資本会計の時代へ向けたアクションを実行



Nature
Positive
&
Carbon
Neutral

世界課題へのチャレンジ 国際団体の設立



- 2023年9月世界の森林関連企業とInternational Sustainable Forestry Coalition (ISFC)設立
- メンバー企業は、内外23社、世界31百万haの山林を管理・所有
- 2025年11月弊社磯野CEOがChairmanに就任
- 持続可能な森林管理をベースとした自然資本会計時代に向けた国際的潮流を牽引、COP30にてForestry Natural Capital Projectレポート発表 (Project3)



arauco[®]

CapMan

Climate Asset Management
A partnership of HSBC

France Valley INVESTMENTS

Gresham House Specialist investment

FOREST INVESTMENT ASSOCIATES

Marubeni

MERCER International



New Forests

NIPPON PAPER GROUP

OJI
Dedicated to Sustainability

PotlatchDeltic

Rayonier

STAFFORD CAPITAL PARTNERS



SUMITOMO FORESTRY

SUZANO



Weyerhaeuser

正会員21社の他、準会員2社

16

世界課題へのチャレンジ 国際的枠組みづくりへ



Forest Pavilion
Financing the Climate and Nature Smart, forest based circular
bioeconomy Panel 2025/11/10



Global Commons Forum
Capitalizing Nature for Growth and Stability Panel
2025/10/7



OJI HOLDINGS



Growing Forests, Utilizing Forests.